

ヤマタノオロチの彫刻

八つの頭と八つの尾を持つ神話の大蛇「ヤマタノオロチ」をモチーフにした彫刻。1939 年生まれの伊藤隆道が制作し、1985 年につくば（茨城県）で開催された国際科学技術博覧会に出品された。全長 19 メートル、高さ 6.98 メートル。

八岐大蛇（やまたのおろち）の伝説は、日本最古の文献に登場する。ここでは、スサノオノミコトが天界から降臨し、当館の東約 8 キロに位置する船通山に到着する。そこでスサノオノミコトは、八岐大蛇が娘を食べに来ると嘆く夫婦に出会う。スサノオノミコトは獣を退治し、その尾の中に剣が隠されているのを発見する。剣は日本の皇室の三種の神器の一つである。この物語は、奥出雲地方と刀鍛冶との古くからの結びつきを浮き彫りにしている。